

I 事業の概要（地域の実情含む）

八幡平市は、岩手山・十和田八幡平国立公園を有し、火山活動が見られる地域である。寺田地区は、八幡平市南東部に位置し、東方には七時雨山がある。七時雨山峰は、約110万から90万年前に活動した七時雨火山を構成する溶岩ドームであり、七時雨火山の中心部には田代平カルデラがある。七時雨山は、活動を既に終えている死火山であるが、1823年、1933年、1935年に鳴動の記録がある。寺田地区の平地は水田、丘陵地は畑地で、地区面積の大部分は山林・牧野となっている。平成25年には、台風による豪雨で川の氾濫や家屋の浸水など、大きな被害が発生している地域でもある。

II 取組の概要

1 安全マップの作成

3年生は、自分たちの住んでいる地区を歩き、危険場所を見つけたり、マップに記入したりする活動を行った。地区や自分たちの身の回りにどんな危険があるかを探り、安全に生活しようとする意識を高めることができた。市で作製した防災マップと比べ、本当に危険なところであると確認することもできた。その後、学校の昇降口近くの壁に掲示し、全校児童、保護者、地域に広く周知している。

〈児童の感想〉

- ・マップを作ったら、知らなかった地区のことを知ることができました。ぼくが知らない危ないところがありました。
- ・寺田にもいっぱい危険なところがあるなあと感じました。気をつけたいです。



【安全マップの作成】



【作成した安全マップ】

2 火山の学習

4年生は、火山の仕組みや歴史、火山灰や土石流、被災予想などについて学ぶために、岩手山火山防災情報ステーションイーハトーブ火山局を見学した。噴火すると、噴石が当たって建物は壊されるという火山の被害についても学んだ。災害をもたらすマイナス面の火山の役割だけでなく、火山のプラス面の役割について学ぶため、松川地熱発電所を訪れた。火山帯の地下に貯まった天然の蒸気を地上に取り出し電気を作れること、その電気はCO₂排出量が極めて少ないクリーンなエネルギーであることを学んだ。

岩手山が噴火したという想定での全校避難訓練では、火山について学習したことから、下方への垂直避難をすることが大切であることを全校児童に教えた。

〈児童の感想〉

- ・岩手山が噴火するとどこまで噴石や灰が飛んでくるかを模型や映像、パネルで勉強することができました。また、溶岩が流れてきて危険だということも勉強しました。
- ・岩手山が噴火することもあるということが分かりました。火山が噴火したとき、2階ではなく、1階に逃げると良いということがわかりました。



【火山噴火を想定した避難訓練でホールに集まった】



3 松尾鉱山と北上川清流化対策の学習

4年生から6年生は、岩手県環境生活部環境保全課の方をゲストティーチャーに迎え、松尾鉱山と北上川の清流化対策について学んだ。

松尾鉱山からの鉱毒によって赤川と北上川が汚れてしまったこと、そのために、今でも北上川清流化対策を24時間体制で行っていること等を学んだ。何十年と昔のことではあるが、一度壊した自然を元に戻すことはとてもたいへんなことであることを学んだ。

〈児童の感想〉

- ・ 鉱山で汚れた水で自然がなくなったので、鉱害というものは大きな害を及ぼすということが分かりました。これから自然を大切にしていきたいと思いました。
- ・ 自然を壊すと元に戻すのがたいへんだと先生が言っていました。これから、自然を壊さないようにしたいです。



【鉱毒水と中和した水の匂いを嗅いでいる児童】

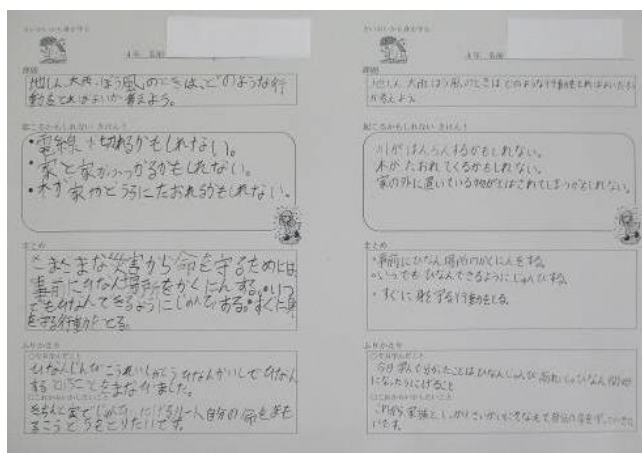
4 先進校視察と防災の授業

防災教育担当者が、先進校を視察して学んだことを活かし、4年生を対象に「いきる、かかわる、そなえる」の副読本を活用した防災の授業を行った。寺田地区で、地震や大雨・暴風などにより、どのような被害が起こりうるのか、その時、自分たちは命を守るためにどのような行動をとれば良いのかについて学んだ。授業では、防災士の資格を持つ本校職員から、避難に関する用語や大雨の中を避難する困難さについて説明を行った。また、大雨時の疑似体験では、床に段ボールを置いて物が流れてきているという場面のもと2Lのペットボトルを両足に2本ずつ結びつけて雨が増えて歩きづらい状態を体験したり、後ろから押さえている傘をさして、棒に平テープ

をたくさん吊して視界の悪い状態の中を児童に実際に歩かせてみたりした。また、実際には暴風雨の条件下では、長靴の中に水が入ってしまい動けなくなってしまうため、運動靴で避難することも学んだ。被害がないと思われていた自分たちの地区が、以前、台風での被害があったことも知り、現実感のある学習となった。

段階	学習活動・内容
導入 5分	1 学習課題を確認する。 地震、大雨、暴風の時は、どのような行動をとればよいか考えよう。
展開 30分	2 写真の中で災害により起こるかもしれない危険な場所を見付ける。 ・ 場所を見つける。 ・ ペアで、予想される被害を考え、カードに記入する。 ・ カードに書き込んだ予想される被害を発表する。 3 地震、大雨、暴風になったらどうすればよいか考える。 4 災害時のための準備にはどのようなものがあるか確かめる。 5 学習のまとめをする。 様々な災害から命を守るためには、 ・ 事前にひなん場所の確認をする。 ・ いつでもひなんできるように準備する。 ・ すぐに身を守る行動をとる。 6 身を守る行動について、防災士から話を聞く。
終末 10分	7 本時の振り返りをする。 (1) 振り返りシートを書く。 (2) 振り返りを発表する。

【防災学習指導案】



【児童が記入した学習シート】



【ペアで相談して考えられる被害をカードに書く】



【起こるかもしれない被害について発表し合う】



【防災士から避難情報に関する話を聞く】



【洪水の中を歩く大変さを体験】



【大雨による視界の悪さを体験】

＜児童の感想＞

- ・「避難準備高齢者等避難開始」と言われたら、私たちも逃げるということを初めて知りました。
- ・きちんと家で準備し、逃げるルートを確認しておき、自分の命を守る行動をとりたいです。
- ・体験活動では、前が見えなかったり、足が動かなかったりして、大変だということがわかりました。そうなる前に、避難したいです。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 安全マップの作成により、自分の住む地区だけではなく、学区全体の危険箇所を確認することができた。また、校内に展示したことにより、全校児童及び保護者や地域住民に広く周知することができた。
- (2) 火山噴火の時の被害について学ぶとともに、火山の恵みについても学ぶことができた。
- (3) 一度壊した自然を元に戻すには、長い年月がかかることを学び、郷土の自然を大切にしていこうという心が育った。
- (4) 自然災害や防災についての理解と、日頃の備えについて考えを深めることができた。命を守るために大事なことは何かを理解させることができた。

2 課題

- (1) 学校全体で防災教育にかかわる計画を立てて継続して指導していく必要がある。
- (2) 学校内の活動だけではなく、授業参観時に防災の授業をするなど、家庭や地域を巻き込んでいく必要がある。